## 3.11 から 災前の策

## 第158回 特別編・三重むすび塾

#### 二見興玉神社禰宜 福田和人さん(57)

#### 参拝者の安全目指す



神社は海と山に挟まれており、台風のたび に高潮や土砂災等に注意を払っている。南海 トラフ地震の津波対策で避難マニュアルを作っているが、例えば常勤ではないみこらが、 旅行者らを誘導できるかは心もとない。地域 を挙げて訓練することができたら心強い。参 拝に訪れる方の安全のためにも参加したい

#### 二見町旅館組合長 被害想定 より詳しく 増田幸信さん(59)



東日本大震災の時に二見補にも津枝繁領が 出て、宿泊客をバスで温難させたことがある。 今思えば不十分な対応だった。火災の訓練は しているが、津波の訓練もする必要がある。 二見補でどんな被害が想定されるか詳しく知 りたい。後間の迎難か得に心をで、高台の照明 をいつもともしておくようにしてはどうか。

實日館事務局長 地域一丸だと心強い 山本直子さん(40)



で、一緒にする団体があればうれしい。避難 場所に備蓄品がないことが気になっている。

ニ見まちづくりの会会長 防災マップ配布継続



会として地域で防災マップを配布したり、 譲廉を開いたりしてきた。防災への産職を高 めてもらうため、今後も続けていきたい。むす び撃亡学んだのは、旅行者を守る前規として 「自分の命は自分で守ること」の大切さだ。 地域で取り超北避難訓練には協力する。 地元 の事情に詳しい人たちの参加を求めたい。

#### 伊勢市消防団副団長 五十子昌秀さん(57)

### 率先避難に力入れる



東日本大震災では多くの消防団員が殉職し 東日本大震災では多くの酒的灯间のが興職し た。まず自分の身を守り、周囲にも避難を促 す「率先避難」に力を入れている。旅館を経 営しているが、東日本大震災以降は、修学旅 行で訪れる予定の学校から、事前にハザー マップの提出を求められるようになった。安 心・安全な観光地にすることが必要だ。

皇学館大2年 磯和大智さん(20)

#### もっと大きい看板を



3人(20) 二見浦は旅行者の歩く道が悔に沿っている ため、避難誘導する時に海から離れるのが遅 くなるのではないかと不安に感じた。旅行者 の立場で考えると、避難場所を示す着板は大 きくしてほしい。伊勢神宮内宮前のおはおい 即で、防災プロジェクトに参加しており、三 重むすび塾での経験を生かしたい。

水木千春さん(47)

#### 情報不足 一番の不安



5人(4/0) ・ 見に住んでおり、旅行会社で働いた経験 もある。知らない土地にいる観光客が一番不 安なのは、情報がないことだと思う。現実 者から避難路を示されただけでも安心する。 高谷への避難誘導は地元の人の役割。とう観 な客客各首もいて避難させられるか、日ごろ 光客を落ち着いて避難させられるか。日ごから意識して、訓練することが欠かせない。

# 高台へ 観光客も住民も

誘導

課題を

議論



のあり方を話し合う参加者 の表すり変での座談会で、避難



地域全体で震災前から訓練を重ねていて、自ったら小さな標識には気付かないかな、と感ったら小さな標識には気付かないかな、と感避難訓練に参加して、地震でパニックにな遊難訓練に参加して、地震でパニックにな 難できたのだと思う。皆さんも、日ごろから避分の逃げるべき場所が頭に入っていたから避

難路や避難場所を頭に入れておいてほしい

H ごろから意識



宮城県富谷市 大学生 佐々木花菜さん(20)

みんな下を見て歩く。普通の標識では目に入た。実際は足元に崩れた物が散乱するので、今回の訓練は危機感が足りないように感じ 和らぐかどうかは、迎える側の対応が大切にい。また、旅行者はパニックになる。不安が なる らないと考え、目立つものにしないといけな 。自信を持てるような訓練をしてほしい

いる。ぜひ参考にしてほしい 三重大准教授 川口淳さん(53

観光の魅力は磨き続けて を磨き続けてはしい。災害が 「自分ごと」になるのは、体 験してつらい思いをした人の 話を聞き心に響いた時だ。心 に火が付いた人を地元で増や し、みんなで防災の取り組み 年、津波の避難訓練を行って 民、漁業者らが一緒になり、毎 民、漁業者らが一緒になり、毎 三重県志摩市の国府白浜で、 を磨き続けてほしい。災害が も、海に面した観光地の魅力 を続けることが重要になる。

# を紹介する。

の大切さを訴えた。「備える」で、東北の旅館経営者らは危機感 多くの旅行者が訪れる一方、南海り日新聞社の共催。夫婦岩などにかれた。河北新報社(仙台市)と の津波被害も予想される観光地 トラフ地震の発生時には最大五以 一日、三重県伊勢市の二見浦V教訓を伝える「三重むすび塾」 験者を招き、 一〇一一年の東日本大震災の体 特別編として参加者の声など (大島康介、 防災訓練と座談会で 子び塾」が

大婦岩を訪れていた土地勘のな い旅行者たらに、避難や呼び掛け い旅行者たらに、避難や呼び掛け い旅行者での調練は、参加した四 十人が旅行者役や誘導役に万か れ、陶海トラフ地震が発生した時 が訪れる一員側玉神社の天婦岩か が訪れる一員側玉神社の天婦岩か が訪れる一員側玉神社の天婦岩か が訪れる一員側玉神社の天婦岩か が訪れる一員側玉神社の天婦岩か

難 た。 難 た。 といてきた。とにかく訓 が と訴え 前から繰り返していたので宿泊客

宮城県女川町 宿泊施設経営 佐々木里子さん(50)



# いた。車は渋滞する。足で逃げることが主要だ。 避難路は頭でなく体で覚えるのが一番。 だ。避難路は頭でなく体で覚えるのが一番。 がない」と思い込んでいた。高台に逃げてかない」と思い込んでいた。高台に逃げてかまない。 「ここに律波が来るわけ 高台に逃げてか

社 一見補の関係者からは、「津波 い」との意見が多く出た。一見阑 い」との意見が多く出た。一見阑 に一気がある。福田和人さん(全) は「繁忙期に地震が起きたら、狭

千代川茂さん(65) 道

は体で覚えて

「三重むすび塾」が開かれ た三重県伊勢市二見町―本 社へり「まなづる」から

いる国重要文化財「賓日館」で座の宿で、現在は交流施設となって

岩手県大槌町

ホテル経営者

かつて皇室御用達

しましょう」



## 訓練に加え座談会が大切



東北大教授 東北大教授 を得ていってほしい。

に訓練と座談会を組み合わせることが大切だ。 さいか少なく、取り組みが継続しい。 をしていかない。 現外地の防 戻し難しい課題が加積してい のは難しい課題が相積しているが、ハワイや中値といった を進せいの取り組みからヒント 私のシミュレーションで いてほしい。むずび勢のよう いとみている。必ず備えてお いとみている。必ず備えてお

載を予定しています。 次回の「備える」は一 月七日の掲

(c).中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています